

水と黒潮

龍郷町立赤徳中学校 一年 佐竹 すみれ

私が住む、奄美大島では今日も雨が降っている。奄美市の年間降水量は、二千八百ミリメートル。東京都の年間降水量は、千五百ミリメートル。そして、アメリカ合衆国のカリフォルニア州の市、ロサンゼルスロサンゼルスの年間降水量は、三百九十六ミリメートル。なんと、奄美市は、ロサンゼルスロサンゼルスの約七倍の降水量だ。そんな、奄美大島で、私が保育園生の頃に雨が降った後、楽しみにしていたことがある。それは、大雨でできた水たまりで、みんなでピチャピチャと遊ぶことだ。特に保育園の遊具で、水をはじきながら遊ぶときは、とても楽しくて、一番最後まで外に残っていた記おくがある。そして、私が小学五年生の運動会で大雨が降った。大雨だったが、運動会を続け、最後には、にじが出ていた。「大雨の中の運動会」というのは、なかなか出来ないよ
うな体験だと思った。しかし、服は水をたく

さん吸って重くなり、校庭は雨でグジャグジャになっており、やはり大変だった。

私は「雨が深い奄美大島は、水不足になることはないだろう」と勝手に思っていたが、昔は、水が豊富ではなかったとお父さんから聞いた。やはり、陸地が少ない奄美大島、水不足になることは少なくなかったと聞いた。十六年ほど前は、雨が全然降らず、水不足になった。そして、水不足のため断水も起きていた」という話を聞いた。同じ地域に住む、ご年配の方は、水くみに行っていたということも聞いた。私はもし水くみに行ったり、断水が起きたりしたら、大変だと思った。私は当たり前のように、じゃ口をひねれば水が出てきて、シャワーをあびたり、水を飲んだりしている。今では、空から降ってくる雨水とじゃ口から出てくる水道水のつながりをあまり感じなくなっている。

奄美が雨が多い理由は、「黒潮」にある。黒潮は日本の南から奄美群島の近くを通り、

千葉県房総半島辺りまで流れる暖流だ。黒潮が流れるところは、海水温が高くなる。そして、海水温が高いと、水蒸気がたくさん発生して、降水量が多くなるのだ。

私は、黒潮が流れる暖かい海で泳ぐことが好きだ。黒潮の海の中にいると、体がういて自由になったように感じる。そして、暖かい水の中にいると、包まれているような感じがして安心する。

空から降ってきた雨が、奄美大島の豊かな森や自然をうるおし、私たち人間ののどをうるおす。そして、海へ流れ、私が好きな黒潮の流れる海で泳ぐことができる。

私は、水を大切にするために、雨水と水道水はつながっているということを忘れないようにしたい。水道水は自然と関係しているということ。昔は、雨があまり降らなくなるとすぐに水不足になってしまったり、断水が起きてしまったたりしたように、雨水のおかげでじゃ口をひねれば水が出てくる、シャワーを

あびる、水を使って料理を作る……などの多くのことが当たり前にできている。そのことを忘れないようにしたい。

「水」は、「少し使わせていただいているもの」だと思うといいと感じた。だからこそむやみに使ったり、雑に使ったりせず、水をていねいに大切に使う。そして、私たちができる限りでもきれいにして、返す。このようにして、「水」と関わり、生きていこうと思った。